

栽培管理日誌は必ず記入し、出荷にあたっては必ず提出しましょう。

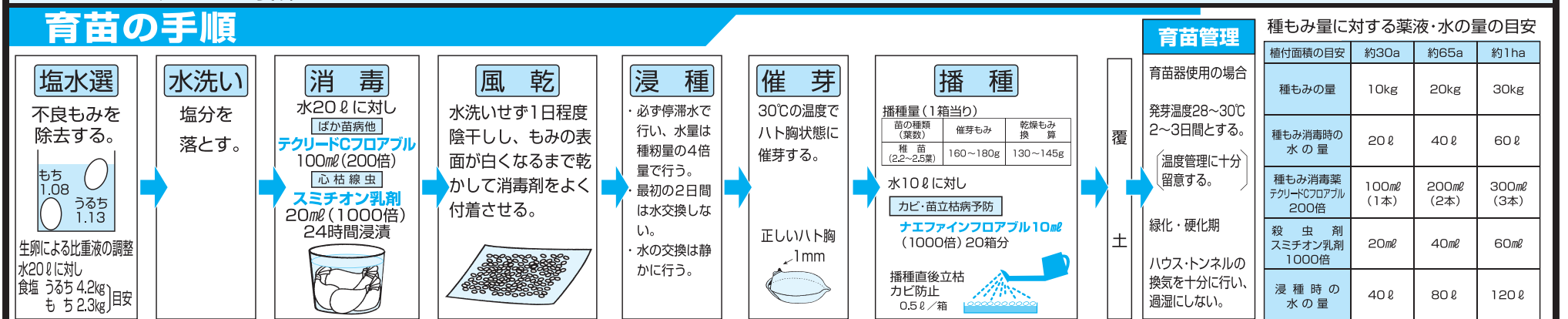
◎農薬の安全使用基準を守って正しく使いましょう!!

◎良質米づくりの基本は土づくりから!!

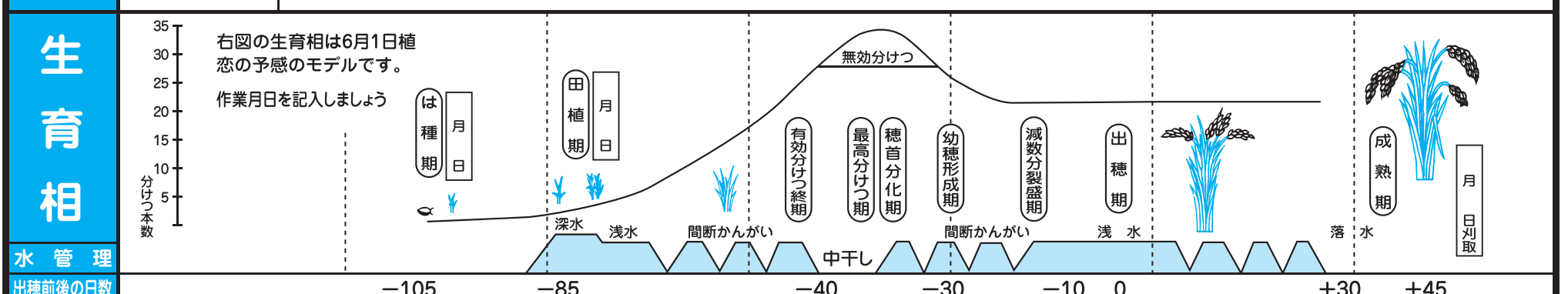
◎お米はJAへ!!

◎農作業中の事故のないように注意しましょう!!

◆JA米について◆ JAグループ広島では、平成19年産米から安全・安心を基本とした『JA米』に全面的に取り組んでいます。JA米とは、3つの要件を満たし、かつJA米以外のお米と区別して、契約・検査・集荷・販売されるお米です。
★JA米の3つの要件★ 1. 毎年の種子更新又は育苗センターで購入した苗。 2. 検査機関で検査されたお米。 3. 栽培履歴及び自己点検チェックシートの記載されたお米。



| 時期 | 10~3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | |
|--------|------|------------|------------|-------------|-------------|----|----------------|----|--|
| 生育のめやす | 恋の予感 | 田植 -20日 は種 | 出穂 -85日 田植 | 出穂 -24日 穂肥1 | 出穂 -10日 穂肥2 | 出穂 | 出穂 +45~50日 成熟期 | | |



主な作業

| | | | | | |
|--|--|---|---|---|--|
| 異常気象にも強い健康な稲をつくるには、地力の増強が第一です。冬期農閑期に有機物や土づくり肥料を施し「土づくり」に努めましょう。刈取り後は獣害を防ぐため、早めにすき込み、草の発生を防ぎましょう。 | (基肥) は、代かき前に施用。 ○代かきは、ねりすぎないように注意する。 ○植付本数は3~5本。植付深さは2~3cm。 ○栽種密度のめやす 恋の予感 50株/坪 あきさかり 40~50株/坪 ○除草剤は適期に使用する。 | (追肥) は、田植後15~20日頃に施用。 ○赤枯症や、ガス発生防止のため間断かんがいをを行う。 ○硫黄欠乏症対策 過石を施用する。10kg/10a ○ガス対策に豊土サングリーン(追肥用)を施用。5kg/10a | (調節肥) は、出穂前40日頃に施用。 ○根腐れ防止・根の健全化のため中干しを行う。 ○恋の予感強い中干しをしない。 | (穂肥1) は、出穂前24日頃に施用。 (穂肥2) は、出穂前10日頃に施用。 ○出穂前後の病虫防除を行う。 ○高温が続いた場合、水を掛け流し、水温の上昇を抑制しましょう。 | ○食味低下になるので出穂後は追肥はしない。 ○早期落水は、品質低下になるので過期落水を行う。 ○収穫後は早めに耕起し、稲わらの腐熟促進を図る。 ○紋枯病及びごま葉枯病の発生した圃場では、稲わらの持ち出しを行う。 |
|--|--|---|---|---|--|

土づくり肥料施用例 (10a当りkg)

| 肥料名 | 施用量 | 備考 |
|--------|-----------|------------------------|
| アツミン | 60kg | 腐植酸配合により、地力増進効果が高める。 |
| ミネラルG | 100~200kg | ごま葉枯病の発生する秋蒔田。 |
| ミネラルPK | 60~100kg | L型肥料で不足しがちな、リン酸と加里を補給。 |

稲わら腐熟促進資材 (10a当りkg)

| 資材名 | 施用量 | 備考 |
|---------|---------|------------------------|
| わらゴールド | 30~60kg | セルロース分解菌により、稲わらの腐熟を促進。 |
| 石灰窒素 | 20kg | 石灰のアルカリ促進効果と窒素で分解を促進。 |
| アグリ革命細粒 | 2kg | 酵素の力で稲わらを分解。省カタイプ。 |

箱処理剤 (圃場にあったものをいずれか一つ選択)

| | |
|--|---|
| ウンカ・紋枯病対策 は種時~移植当日 スクラム箱粒剤 いもち病・紋枯病・ウンカ類・コブノメイガイネドロオイムシ・イネミスソウムシ 他 50g/箱 (月 日) | 稲こうじ病対策 移植3日前~移植当日 サンエース箱粒剤 いもち病・紋枯病・稲こうじ病・ウンカ類・コブノメイガイネドロオイムシ・イネミスソウムシ 他 50g/箱 (月 日) |
| ウンカ対策 は種時~移植当日 防人箱粒剤 いもち病・ウンカ類・コブノメイガイネドロオイムシ・イネミスソウムシ 他 50g/箱 (月 日) | ※紋枯病・稲こうじ病は菌核・胞子が越冬し伝染源となり、翌年同じ圃場で発生します。圃場にあったものを選択しましょう。 |

粉剤体系

| | |
|--|---|
| 出穂前 7~5日 (収穫 14日前まで) ビームバシボン粉剤DL いもち病・紋枯病・ウンカ類・コブノメイガイカメムシ類・イナゴ類 他 3~4kg/10a (月 日) | 出穂後 5~7日 (収穫 7日前まで) ブレードスタークル粉剤DL いもち病・ウンカ類・カメムシ類 他 3~4kg/10a (月 日) |
|--|---|

粒剤体系

| | |
|---|--|
| 出穂前 20~15日 (収穫 45日前まで) ゴウケツモンスター粒剤 いもち病・紋枯病・稲こうじ病・ウンカ類カメムシ類 他 3kg/10a (月 日) | 出穂時~出穂後 7日 (収穫 7日前まで) スタークル粒剤又は豆つぶ ウンカ類・カメムシ類 他 3kg/10a(月 日) 250g/10a(月 日) |
|---|--|

※ カメムシ類多発時は出穂前後にスタークル剤を散布しましょう。

除草剤使用基準

| 日数 | 代かき -7日 | 田植 +0日 | +5日 | +10日 | +15日 | +20日 | +25日 |
|-------|--------------------------|---------|------|------------------------|-----------|-----------|------|
| 体系処理 | * 体系処理は①か②のどちらかで行ってください。 | | | | | | |
| ① | 初期処理 (代かき後) (移植7日前まで) | 体系処理剤適期 | | | | | |
| ② | 初期処理 (移植後) | 体系処理剤適期 | | | | | |
| 一発処理 | | 田植 +3日 | +10日 | 体系処理剤・一発処理剤 (下記の剤から1つ) | | | |
| 品名 | | | | ジェイフレンド | アシュラ | ウルティモZ | |
| 粒剤 | | | | 移植時 移植直後~ | 移植時 移植直後~ | 移植時 移植直後~ | |
| フロアブル | | | | 移植後5日~ | 移植後5日~ | 移植後5日~ | |
| ジャンボ | | | | 移植後5日~ | 移植後5日~ | 移植後5日~ | |

施肥設計例

| | 基肥 (月 日) | 追肥 (月 日) | 穂肥1 (月 日) | 穂肥2 (月 日) |
|-------|---------------------------|---|--------------|--------------|
| 恋の予感 | 中生い~ね755 60kg | ※肥持ち・水持ちが悪い圃場は、肥料を1割程度多めに施用。 ※ごま葉枯病の発生した圃場では、ケイ酸加里40kgを同時に施用。 調整肥のケイ酸加里も11月~基肥施用時での散布が可能です。 | | |
| あきさかり | JBあきさかり502 40kg | ※倒伏軽減のため、ケイ酸加里 (40kg/10a) を施用。 | | |
| 分施肥型 | い~ね403改 30kg ようりん 20kg | い~ね403改 10kg | い~ね707改 15kg | い~ね707改 10kg |
| 分施肥型 | い~ね403改 30kg ようりん 20kg | い~ね403改 10kg | い~ね707改 10kg | い~ね707改 10kg |

中後期

| 発生に応じて使用 | 藻類・ウキクサ対策 モゲトン粒剤 (月 日) 2~3kg/10a 発生初期 (収穫45日前まで) ※湛水散布 (3回まで) | ヒエが残った場合 トドメMF1キロ粒剤 (月 日) 1kg/10a 移植後14日~ノビエ5葉期 (収穫50日前まで) ※湛水散布 (3回まで) トドメMF乳剤 (月 日) 200mℓ/10a (水100ℓに溶かす) 移植後14日~ノビエ7葉期 (収穫50日前まで) ※湛水散布又は落水散布 (2回まで) | ヒエ以外の雑草が残った場合 バサグラン粒剤 (月 日) 3~4kg/10a 移植後15~収穫45日前まで ※落水散布 (1回まで) | コナギ対策 ウィードコア1キロ粒剤 (月 日) 1kg/10a 移植後7日~ノビエ4葉期 (収穫60日前まで) ※湛水散布 (2回まで) | ヒエおよび広葉雑草が残った場合 レプラス1キロ粒剤 (月 日) 1kg/10a 移植後14日~ノビエ4葉期 (収穫60日前まで) ※湛水散布 (1回まで) トドメバSMF液剤 (月 日) 1000mℓ/10a (水100ℓに溶かす) 移植後15日~ノビエ6葉期 (収穫50日前まで) ※落水散布 (2回まで) | 畦畔雑草対策 グラスショート液剤 (月 日) 300~500mℓ/10a (水50~100ℓに溶かす) 草刈り後10日~20日の雑草再生期 (雑草草丈10cm程度) ※雑草茎葉散布 (3回まで) |
|----------|--|--|---|--|---|---|
|----------|--|--|---|--|---|---|

※昨年倒伏が激しかった圃場や、堆肥を1,000kg以上施用した圃場では、肥料の施用量を1割~2割程度減らして下さい。 ※農薬内容はR6.10月末現在の登録情報を参考に作成しています。無断転載禁止!